

「ごみの学習」の指導過程も誰かに教わったとかいうことじゃなくて、自分で考えました。指導案も、以前大六にいた二井家先生がおやりになった「ごみの学習」の授業を思い出しながら、私がつくりました。でも、授業者は市原先生ですから、市原先生が自分なりにお考えを入れて、それで最終的なものが出来上がったということになります。現場の研究ですからね。みんなでお考えを出し合いますし、やはり授業者の意志というのは無視できませんから。

でも、あの指導過程や、ゴミ収集車を子どもたちに追いかけさせるというのは、二井家先生がおやりになっていた授業をヒントにして私の方で考えました。そして部会に提案しました。

大体、私は勉強しないもので、授業は本から学ばずに、同じ学校にいた先生方のすばらしい実践から学びました。二井家先生の「ごみの授業」とか……。 「郵便集配の授業」も参考になりました。ポストの横に書いてある時刻を集めると郵便集配車の経路がわかるんですよ。子どもたちが夢中になって調べていました。

算数では、伊地知先生のもので印象に残っています。大六の校庭は狭いって子どもたちは言うんです。確かに母体校の第二小学校の校庭と比べたら、面積では向こうのほうが広いでしょうね。でも、本当に向こうのほうが広いって言えるのかっていう投げかけを割り算の学習の導入に使ったんですね。それで、一人当たりの校庭の面積を出させたら、大六のほうが子どもの数がずっと少ないですから、一人あたりでは大六のほうが広いんです。算数の勉強っていうのも、子どもたちの生活の中に生きるもの、生活と結びついたものじゃなくちゃいけないというのが、伊地知先生の考え方でした。この授業も、本当に勉強になりました。

#### 【インタビュー一註】伊地知順子と二井家美智子の実践について

上の田中の話を聞いて、「ごみの学習」において、田中たちが子どもの興味を引き出そうと丁寧な工夫を行っている背景、そして知的な興味ばかりでなく子どもたちの生活と結びついた興味を引き出そうとしている授業づくりになっている理由がさらに具体的なレベルで明らかになった。そうした授業を実際に行っていた先輩・同僚が周囲にいたのである。そしてそうした人々から学んでいたのである。

田中が名前を挙げた二人の実践を見てみる。伊地知の場合には、導入において学習事項を子どもたちの生活と結びつけようという工夫が顕著に見られる。一例を紹介する。小学校五年生の「整数のわけかた」と言う題材である<sup>①</sup>。目標は、「整理券による3つの窓口での並び方は、3で割ったときの余りに着目すればよいことを理解させる」<sup>②</sup>である。

1T 今日、楽しい勉強をしましょうね。何の絵でしょう。

(駅で切符を買うために必要な整理券をもらうために並んでいる人々の絵を提示)

1P 整理券をもらうために並んでいる。

2P 駅の窓口か？

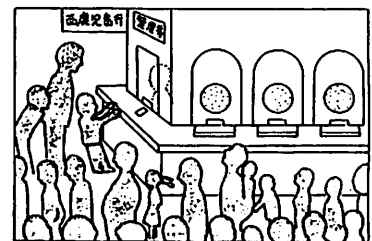
3P 切符を買うのかな？

いや整理券をもらうためだよ。

2T ああそう。どうして整理券をもらうの？

4青木 わたしがいいです。もし整理券がなかったら小さい人が、大きい人より早く来て並んでいるのに、おとなにじゃまされたり、先を買ってしまうので整理券をもらうんだと思います。

3T そうね。ほかには？ (沈黙) あのね。汽車の切符買ったことない？ (ある一) 先生はね、いなか鹿児島なのね。(うーん) 鹿児島まで帰るときに一週間前から切符を売ってくれるんだけど、一週間前に行ってももう売り切れているのよ。だから8日目の朝4時頃から並んで夕方六時頃整理券をもらうのよ。東京駅に泊まるのたいへんでしょう。だから整理券くれるのね。(ふーん) そして翌日の9時頃もう1回整



理券通りに並んで、いよいよ切符を買うのよ。では、今日は、3つの窓口で切符を買うことにします。さあ、どんな並び方があると思いますか。

子どもにアピールするよう、具体的な上のような絵を最初に提示した。整理券という文字、西鹿児島行きの表示、先頭に並んでいる子どもの絵等に目ざとくキャッチし教師の意図する方向に動いてくれるかに見えた。しかし絵からだけの把握で体験していないためそれ以上の要求には、反応がなかった。

そこで3Tで教師の体験談を詳細に話し、子どもに場面の把握、すなわち整理券の必要性を確実にした。よって興味と関心を起こさせることができたようである<sup>8)</sup>。

このように、導入の工夫、そして教材に配慮していても、伊地知は決してこれに満足していない。この実践記録は、次のような反省で結ばれている。

日常事象の中から子どもたちが、はっきりとした目的意識をもって分類整理できるような学習素材の選択を長期間考え続けた。整理券による、乗車券の購入の素材も教師の体験と、ブルートレインの流行により生きてきたが、一般的な素材とはいえないだろう。他に飼育当番の割り当て、スケート場や後楽園の入場券購入、就学児健康診断の検査室へ行く方法等があげられるが、いずれの素材も教師と子ども、子どもと教材、子どもと子どもの心のふれあいによって成立するものとする。

このように子どもにあった教材とは何かを徹底的に考え抜く同僚を田中は持っていたのである。

今一人の二井家美智子とはどのような実践家なのであろうか。

二井家の代表的な実践は、抽出児の人格の成長を長期間にわたって見守り、働きかけを行った社会科授業である。田中の口から、「二井家美智子」という名前を聞いても初めは、何も思い浮かばなかった。しかし、田中から「こういう風を書くんです」と字を示された時に、どこかで見たことのある名前だと思った。大六の実践の質から、もしかすると「初志の会」の会員ではないかと思い、田中に「二井家先生は社会科の初志の会に入っていないませんでしたか」と尋ねると、そうだという返事が返ってきた。

北海道に戻ってきてから、研究室にある本を探してみた。昭和56年に刊行された『社会科の初志をつらぬく会の授業記録選 第四集』に二井家の「寒くて雪の多い土地の気候と冬のくらし—大曲の子どもとの文通を通して—」があった。昭和57年2月に読んだことになっているから19年ぶりの対面であった。上で、「二井家先生の代表的な実践」としたのは、これである。4年生の12月下旬に始まったこの実践は、5年生の農業学習へと続いていく。

昭和56年に出されたこの本にある二井家の所属は、「東京都大田区小池小学校」となっている。したがって、昭和56年には既に、大六から小池小学校に移っていたということになる。

「寒くて雪の多い土地の気候と冬のくらし」では、二人の子どもが「注目したい子ども」として取り上げられている。いずれの子どもに対しても人格の育ちが期待されているが、ここではそのうちの一人、早川貴志に対して二井家が何を願ひ長期にわたってどのような働きかけを行ったか、ごくかいつまんで紹介する<sup>9)</sup>。

<指導案のはじめ(4年生段階)にかかれたもの>

早川貴志について

いじっぱりで批判を受けると教室に入らない頑固さがある。それだけに、自分の問題は深く追求していく。人の考えにも耳を傾け、友だちと助け合える子どもに育ててほしい。知恵をはたらかせ、協力し合わなくては、雪におしつ

ぶされてしまう雪国のくらしから、自分の生き方は見直せないものだろうか。

〈4年生の1月ごろから2月ごろの早川に対して〉

「水害」の学習に熱中していた早川が、「雪国」の学習に関心を寄せたのは、雪国のお友だちに手紙を書いた時からである。早川は、「雪の中のくらしで困らないように、どんな準備をするのだろう」ということを問題にして、食べ物することに目を向けていた。しかし、二回目の手紙に返事が来なかったという理由でやる気をなくしてしまっていた。大曲の駅前商店街で買って帰った「いよかん」を渡したことから、ふたたび「食糧の輸送」の追求に力をいれ、国道や仙岩トンネルの除雪を調べていった。

一方、雪国のくらしから、自分の生き方を見直させたいという願いをもって、教室に掲示してある大曲市の広報や新聞を読んで、自分の考えをノートに書くよう促していった。

〈5年生になった早川に対して〉

四月十日のノートは、春休みになって市役所のおじさんから届いた手紙を読んだ後に書いたものである。おじさんの手紙は、早川にまっ先に読ませたい内容であった。早川は、平素は親しくしている隣家同士が、冬になると雪のしまつをめぐって険悪な空気が流れるほど大量の積雪に苦しんでいる事実を知り、また作文が生き生きとしていないと母親に批評されて、さらに、除雪作業の苦勞を伝える市役所のおじさんの手紙にふれて、初めて謙虚に自分を見つめている。しかし、まだその考えと行動の結びつきは見られない。

〈5年生の農業学習を進めるなかで〉

5年の農業学習は、「早川貴志の都市計画図（秋田）」をもとにした、「米作りの盛んな秋田に工場は必要なのか」の問題から始まった。早川の考えは（出かせぎをやめて誘致工場に冬だけ働きに行ったのでは、工場の経営が成り立たない）（それなら日雇いの方がいい）（今、米は余っている）（農業をやめて工場に勤めた方がもうけが多い。田んぼをつぶして工場にしたほうがいい。一反論を受ける）（米を作るところは他にもある。秋田の田んぼをつぶしても、ぼくたちの生活は別に困らない）

（秋田は新産業都市になっている。地図で見ると公害印がある。華織さんが、秋田は緑がきれいで空気がおいしいといっているのは、口からでまかせではないか）（今の農家は、もっとお金が入ることを考えなければいけない）と進んでいる。

…〈中略〉…

早川は、考えが一人ぎめになりやすい。教材とのかかわりを深めながら、客観的なものの見方を育てていきたい。

〈5年生の冬に早川が書いたノートに対して〉

早川は、「ヘリコプターで上空からの災害のかけ足視察では、雪国の苦勞はわからない。」と批判的な立場に立ち、「早川貴志の都市計画図（秋田）」をつくって、自分の考えをおし通したりするところが強かった。ここでは、「でも、人はそれぞれかわっているのだからには分からない。」と表現を和らげている。

〈早川を見守り続けてきたこの2年間のしめくりとして〉

早川は、自己主張の強い子どもである。それぞれの子どもの主張には、その子らしい個性の表れとともに、事実の裏付けや、みんなを納得させるだけの根拠を求めてきた。しかし、「事実は、事実として、ずばり言っています。」という早川の言葉の中に、まだ気負いを感じる。子どもを長い目で見守ろうと思いつつも、早川の変化を性急に求めようとする気持ちが、「いい子」に追い込んでいるのではないだろうか。しかし、一方では、早川の「事実は、事実としてずばりと言っています。」という言葉を大切にしたいという気持ちも生まれてくる。

早川と心を通わせ、しっかりとみつめ、とらえ直しをしたい。もっと知らなくては、早川を伸ばすことはできないように思えてくるのである。

田中がこのような二井家の教育姿勢から何を学んだかは、明らかではない。しかし、中野重人をして、「(田

中先生は)子どもの事実から出発して、子どもたちの人間的な成長を追求していくという傾向の強い先生だった」「子どもに目を向けている先生」だったと言わしめるような教育姿勢の形成、維持に二井家の教育実践が何ほどの影響を与えたであろうと思われる。

また、社会科では、知的に何かを知ったとかわかったということでは不十分であるとする以下の語りに見られるような社会科観も二井家と同質のもの、さらに言うなら「初志の会」の系譜にあるものといえよう。

どうして「自分なりにできることを考えよう」ということを入れたかっていうことですか……。社会科で本当にわかったというなら、それを自分の暮らしの中で実践できなくてはと思うんです。知識を詰め込めばそれでおしまいついていうもんじゃないですよ。算数でもふだんの生活に生かせなくちゃおもしろくない。社会科だったら、よけいそうでしょう。

働く人への「共感」をどうしてとりあげたかですか。私は学生時代に、子どもの労働観がどう育っていくかということに興味があつて、そんなことをテーマにして、卒論をまとめました。恥ずかしくて、今じゃ自分でも読みたいとは思いませんし、人に読んでもらおうなんて思いませんが。

### (3) 聞き取りをおえて

田中先生は、いろいろな資料を用意してくれていた。インタビュアーが問うと、時にはそうした資料をひっくり返し、該当箇所を示しながら答えてくれた。また、田中先生がいろいろなところに書いた原稿も見せてもらった。『初等教育資料』(57年5月号;44頁)に載っている公園を掃除している人の絵も、田中先生の原稿のなかに原画があった。田中先生は、絵も好きだったようだ。そうした絵や図、そしてもちろん文字もファックス原紙に書かれている。昭和50年代の半ばから次第に謄写版原紙を押しつけていったものだ。鉛筆やペンで書いてもきれいに印刷できるようになり、教師たちの事務効率がずっとよくなった。そのファックス原紙も今は、ワープロやパソコンによって隅に追いやられてしまった。

聞き取りは1時間半ほど行った。田中先生に疲労の色が見えてきたし、ほとんど聞き取るべきことを聞いたと思ったので、お礼を述べ、辞去することを告げた。

昨日とは違って変わって、よく晴れた日だった。田中先生が美原通りに入るまで、ふたたび同行してくれた。その帰り道でも、田中先生は、すれ違う人に挨拶をしていた。

別れ際、「今度は、お仕事でなくいらっしゃれるといいですね。懐かしいところでしょう」と笑顔で言われた。そういえば昔、もう少し先の銭湯に来たことがあることを思い出した。

### <註及び参考文献>

- ① 大森第六小学校, 1978: 1頁。
- ② 中野重人, 1983, 「新しい評価観と関心・態度の研究」, 東京都千代田区立佐久間小学校『「関心・態度」を育てる社会科の指導と評価』, 2-3頁; 但し, 括弧内は引用者による。
- ③ 東京都千代田区立佐久間小学校は, 昭和56年度・57年度にわたって, 文部省及び千代田区の研究協力校の指定を受けて, 「関心・態度の評価方法の開発」に取り組んだ。その研究成果は, 『「関心・態度」を育てる社会科の指導と評価』という本にまとめられ, 昭和58年に明治図書から刊行された。また, 上田東小学校と東雲小学校の2校も昭和56・57年度に文部省の調査研究協力校の委嘱を受け, 社会科における関心・態度の指導と評価の研究に取り組んだ。その成果の一端は, 『初等教育資料』(昭和57年5月号)に載っている。なお, 田中先生の実践「1年単元 ちかくのこうえん」も「指導と評価の一体化」というタイトルで同号に掲載されている。
- ④ たとえば, 藤岡信勝『「態度主義」論争再考』, 『現代教育科学』No.303, 1982年2月号, 明治図書, 43-48頁。
- ⑤ たとえば小学校1年生の目標として掲げられた下の二つは, まさに「表現」と「読書」に関わる態度なのである。
- ① 経験したこと, 身近な事柄などについて, 簡単な文章を書いたり, 話をしたりすることができるようにするとともに, 進んで表現しよう

とする態度を育てる。

- ② 書かれている事柄の大体を理解しながら文章を読んだり、粗筋をつかみながら話を聞いたりすることができるようにするとともに、やさしい読み物を楽しんで読もうとする。
- ⑥ 大森第六小学校 1981 『昭和55年・56年度大田区教育委員会研究奨励校研究報告 一人一人の学ぶ力を高める指導の工夫』, 48頁。
- ⑦ 巻末資料②「大森第六小学校の態度目標」参照。
- ⑧ 大森第六小学校, 1978: 68-79頁。
- ⑨ 大森第六小学校, 1978: 77頁。
- ⑩ 大森第六小学校, 1978: 78頁。
- ⑪ 大森第六小学校, 1978: 93-103頁。
- ⑫ 同上: 102頁。
- ⑬ 同上: 116-118頁; 但し, 括弧内は引用者。
- ⑭ 同上: 117頁。
- ⑮ 同上: 88頁。
- ⑯ 田中かよ子 1982, 「指導と評価の一体化——1年単元『ちかくのこうえん』——」, 『初等教育資料』(昭和57年5月号), 42頁; ただし, 下線は引用者による。
- ⑰ 中野重人 1982, 「社会科における関心・態度の指導と評価」, 『初等教育資料』(昭和57年5月号), 38頁。
- ⑱ 大森第六小学校, 1981, 「大田区教育委員会研究奨励校中間報告 一人一人の学ぶ力を高める指導の工夫——t 国一人一人の学ぶ力を高める指導の工夫—特に関心・態度の評価を通して—」
- ⑲ 大森第六小学校, 1978: 93-102頁。
- ⑳ 同上: 93頁。
- ㉑ 大森第六小学校, 1978: 102頁。
- ㉒ 二井家美智子 1981, 「寒くて雪の多い土地の気候と冬のくらし—大曲の子どもとの文通を通して—」, 『社会科の初志をつらぬく会の授業記録選 第四集』明治図書, 82-129頁。

巻末資料 福井県福井市立足羽小学校の社会科学習指導案（指導案作成者：高橋道雄教諭）

単元「ごみのしまつ」

展開計画（13時間取り扱い）

過程	主題とねらい	時数	学習内容	学習活動	資料・留意点
問 題 把 握	1 ごみはどうするの  自分たちの出すごみは、どのように始末されているかの実態調査と調べたいことをまとめる	1	○児童の実態を知るための問題 ・ごみはどうしまつされているか ・昔は、どうしまつたか ・なぜ市が集めるか ・調べたいことはなにか ○調べ方とまとめ方・学習計画を立てる ・調べ方——教科書、 実地調査 ・まとめ方——新聞づくり	○ごみをどうしまつしているのかについて、自分の知っていることを書く ○調べたいこと、知りたことを列記し、自分の学習課題をきめる ○学習の進め方を話し合う	・記入用紙 ・スライド（ゴミの山） （学校のゴミ置場）
	2 ゴミの行くえ  ごみは、ステーションに集積され、収集車で処理場へ行き、焼却、埋立てされるという流れを知る  共通課題を作成する	1	○ごみの行くえを概略する ・家のごみ→袋→集積場→収集車→処理場（焼却→埋立て）  ○自分の調べたい課題の確認と意欲づけ  ○共通課題を立てる ①10年前とくらべてどれだけふえたか、なぜふえたのだろう ②清掃センターではどんな機械があつて、どんなはたらきか、なぜそんな機械がいるのか ③なぜ市役所がごみを集めるのか	○ごみはどうしまつされているか、前時の予想を発表しながら順を追って知る ・ごみの行くえを図でまとめる  ○前時の学習課題を吟味し、さらに具体的な調べる課題を考え、決定する  ○みんなで追究する課題を話し合う ・グループで話し合い、いくつかの問題にする ・グループの問題を出し合い、全体の問題とする	・スライド（ゴミステーション） （収集車） （処理場の様子） ・市地図（処理場の位置） 東山センター 南江守センター 笹岡センター
関 係	3 ごみ収集車を追って	1	○ごみ収集車を追い、学校周辺分布図とその状況を表す	○ごみ収集車を追い、分布図に記入する	・校区地図（市のごみ処理状況の資料を教卓に展示する） （町内のごみステーション分布図）
	4 新聞づくり  自分で調べたことやわかったことを新聞にまとめることができる	2	○新聞づくり 自分の書きたいことを1枚の紙にまとめ、文や絵、小見出しをつかってまとめる	○教科書、副読本、家の人の話、自分の調べたこと（家のごみ、町内のごみステーションなど）を新聞にまとめる	
	5 追究課題(1)		○なぜ、みんなが出す1人あたりのごみの量が増えたか	○ごみ量は年々増大していることから学習課題を確認する	・年度別ごみ排出量

過程	主題とねらい	時数	学習内容	学習活動	資料・留意点
考察 / 事実 調査	1人当たりのごみ排出量がふえているのは、消費生活水準の急伸と包装・広告紙等の増大、自家処理の変化による	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費生活の向上、広告・包装紙の増加、自家処理の変化</li> <li>○ごみの増大と処理施設の拡大と充実</li> <li>・収集日と回数、焼却施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想・調べたことから答を見出す</li> <li>・資料をもとに考える</li> <li>○ごみ量の増大に対する対策がどうなっているかを話し合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド(ステーション)</li> <li>・自分の家のごみの記録</li> <li>・昔のごみ処理の絵</li> <li>・所得の向上</li> </ul>
	6 追究課題(2) 処理施設は、ごみの量の増大と質の変化に対応する収集作業と処理をするため大型化、近代化に努めている	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○清掃センターでは、なぜ大きな施設が必要で夜おそくまでしているのか</li> <li>・ごみ量増大——1人当たり排出量、人口増、区域の増</li> <li>・質の変化——ビニル、プラスチック類、かん類</li> <li>○集め方のちがい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○清掃センターの施設や設備をスライドや図で見て、学習課題を確認する</li> <li>・予想を立てる</li> <li>・みんなで考え、追究する</li> <li>○町内のごみステーションの様子や収集日の様子と課題を関連して考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の広がり地図</li> <li>・ごみの実物</li> <li>・人口グラフ</li> <li>・自分の家のごみの記録</li> <li>・スライド</li> </ul>
	7 追究課題(3) 住民の願いや公害から住民を守るため、市が計画的にごみ収集を行っており、他の市町村とも連携している		<ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜ市役所がごみ収集をするのか</li> <li>・住民のねがい——毎日きてほしい、すてる所がない</li> <li>・公害問題——捨てられているごみ、不衛生、生ごみ</li> <li>○他の市町村との共同</li> <li>・東山センター、笹岡センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ごみ収集車には市のマークがあり、収集のパフレットも市役所からだ</li> <li>○学習課題を確認する</li> <li>・予想をたてる。追究する</li> <li>○立地を考え、広域化して共同体制をとる理由を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市地図</li> <li>・スライド</li> <li>・ごみ収集日程表</li> </ul>
発展・追究	8 これからの計画と問題	1	○増えるごみ量とその有効な利用法、今後の対策を考える	○ごみの有効な利用法には、どんなものがあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット</li> <li>・見学のしおり(見学調査は実際は新聞づくりの前にできるとよい)</li> </ul>
	9 見学調査とまとめ ・処理場見学	2	○東山センター見学	○自分の問題、みんなの問題を確かめるために見学する	
	・まとめと発表	2	○見学と学習のまとめ	○ノートにまとめる、発表する	

(出典：中野重人 1985 『社会科評価の理論と方法』明治図書、151-153頁。なお、原資料が入手できなかったために、中野の著書からの引用となった)

※本来、本資料は連載第1回目の原稿に付すべきものであったが、紙数の関係でこの号に回した。そこでまた、大森第六小学校の「態度目標一覧」という資料を次号に回さざるを得なくなった。